

## 平成 30 年度 学校教育自己診断 結果の概要

2019-02-06 集計者：松本 展幸

1 提出率 生徒 84.5% 保護者 38.7% 教職員 100% (生徒・保護者の分母は12月1日現在の在籍による)

2 肯定的回答率 (A よくあてはまる+B ややはてはまる) の高い質問項目 (上位 7 問)

<生徒>

- (1) 83.4% 問 28 「他の先生が授業を見学に来ることがある」
- (2) 83.4% 問 9 「評価の仕方や基準について、事前に示されている」
- (3) 80.2% 問 25 「学校で、地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている」
- (4) 78.7% 問 17 「修学旅行は楽しく行えるよう工夫されている。(2・3年生のみ)」
- (5) 78.1% 問 8 「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」
- (6) 77.9% 問 10 「学習の評価については、納得できる」
- (7) 76.7% 問 29 「成績や家庭のことなどの個人情報についてプライバシーが守られている」

<保護者>

- (1) 87.0% 問 24 「学校では子どもに関する個人情報が守られている」
- (2) 85.2% 問 6 「子どもは、学校に友達がいると知っている」
- (3) 85.0% 問 3 「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」
- (4) 84.7% 問 10 「学校は、子どもの学力や到達度を懇談や通知票などでわかりやすく伝えている」
- (5) 84.8% 問 26 「学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」
- (6) 80.4% 問 21 「先生は子どものまちがった行動を厳しく指導してくれる」
- (7) 80.3% 問 5 「勝山高校に入学させてよかった」

<教職員>

- (1) 92.6% 問 7 「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」
- (2) 92.6% 問 42 「学校から保護者あてに文書を発行するに当たって、校長が決裁するシステムが機能している」
- (3) 87.0% 問 19 「この学校では、生徒・保護者に進路についての情報を十分に提供している」
- (4) 86.8% 問 1 「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」
- (5) 86.8% 問 16 「生徒指導において、警察・少年サポートセンター・子ども家庭センター等の関係諸機関との連携ができています」
- (6) 85.2% 問 15 「この学校では、生活指導において、家庭との連携ができています」
- (7) 85.2% 問 36 「コンピュータ等の ICT 機器が、授業などで活用できる仕組みが整っている」

3 肯定的回答率の低い質問項目 (下位 7 問)

<生徒>

- (1) 33.1% 問 30 「勝山高校の公式ウェブサイト (ホームページ) をよく見る」
- (2) 49.4% 問 22 「校長先生の話は興味深くわかりやすい」
- (3) 53.3% 問 12 「学校生活についての先生の指導は納得できる」
- (4) 55.3% 問 19 「生徒は部活動に積極的に取り組んでいる」
- (5) 57.4% 問 16 「体育祭・文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」
- (6) 59.2% 問 7 「授業では、積極的に学ぼうと思えるような環境が保たれている」
- (7) 61.2% 問 11 「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」

<保護者>

- (1) 24.5% 問 30 「勝山高校の公式ウェブサイト (ホームページ) をよく見る」
- (2) 32.9% 問 29 「PTA 活動や学校行事には参加しやすい」
- (3) 46.8% 問 28 「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」
- (4) 46.8% 問 17 「この学校の部活動は活発である」
- (5) 55.9% 問 8 「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」
- (6) 59.7% 問 16 「この学校の生徒自治会活動は活発である」
- (7) 63.8% 問 15 「文化祭や体育祭などの学校行事は、積極的に参加できるよう工夫されている」

<教職員>

- (1) 29.1% 問 26 「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」
- (2) 32.1% 問 37 「校内研修組織が機能し計画的に研修が実施され、教育実践に役立つような内容になっている」
- (3) 35.2% 問 30 「職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」
- (4) 37.0% 問 28 「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」
- (5) 40.0% 問 27 「学校運営に教職員の意見が反映されている」
- (6) 40.7% 問 46 「生徒・教職員が保護者や地域の人々と交流する機会が多く設けられている」
- (7) 42.6% 問 21 「学校として、部活動を活性化させる取り組みを行っている」

## 過去3カ年の傾向

<注意>

ア これはアンケート結果の統計上の傾向を記述したものです。対応する事実が、学校における実際の現象として存在するかどうかは、アンケートからはわかりませんので、日頃の観察・経験と照らし合わせてご判断ください。

イ アンケート調査では「でたために回答する人がいる」「質問項目をよく理解せずに回答する人がいる」「欠席者や未提出者がいる」「過度に甘く答えたり辛く答えたりする人がいる」ということがあり、集計結果にはそれらに起因する不確実性があります。したがって、小さな差や変化はこの不確実性による見かけ上のものである可能性があるとして取り上げず、顕著な傾向に絞って記載しています。

また、すべての質問項目に「ややあてはまる」と一律に記入するなどの回答も見られるため、個々の質問項目のパーセンテージの数字そのものや、肯定的回答と否定的回答のどちらが多いかといったことにとらわれるのは有用ではありません。したがって、ここでは項目間、年度間、学年間の比較に重点を置いています。

<このプリントの記載について>

ア 各項目は、生徒・保護者・教員それぞれの質問順に記述しています。

イ 簡潔のため、断定調になっているところがありますが、あくまで統計上の傾向なので、「比較的多くの生徒は…」などの語句を補って解釈してください。

ウ 「3カ年」は平成28～30年度、「過去2カ年」は平成28・29年度を指します。

### 1 提出率の変化

平成28年度	生徒 83.5%(1年 65.4% 2年 78.6% 3年 87.5%)	保護者 36.6%	教職員 84.7%
平成29年度	生徒 82.4%(1年 60.0% 2年 75.9% 3年 87.7%)	保護者 38.7%	教職員 80.4%
平成30年度	生徒 84.6%(1年 56.9% 2年 74.1% 3年 76.9%)	保護者 38.7%	教職員 100%

(※生徒の合計%が合わないのは、学年が不明(未記入)の生徒があるため)

### 2 全般変化(全質問項目を合算した四選択肢の回答分布の3カ年の変化)の特徴

- (1) 生徒・保護者とも、1年生のときの回答分布が、2・3年生に進んでも概ね保たれている。
- (2) 今年度2・3年生の生徒に関しては、前項(1)とは異なり、昨年度より肯定的意見が大幅に増えた。
- (3) 生徒は、3年生になると1・2年生のときより「よくあてはまる」が増える。
- (4) 生徒の回答分布と保護者の回答分布は、連動している。ただし、前項(2)(3)の現象は連動していない。
- (5) 今年度2年生の生徒に関しては、前項(4)の現象はみられない。
- (6) 大部分の質問項目では、ここでいう全般変化にともなって、揃って同じように回答が変化している。

